

外国人労働者、 企業の3社に1社が雇用 全国では2番目に高い

「教育・コミュニケーション」の課題は依然高水準
円滑な労使関係を構築する仕組みづくりが必要

静岡県・外国人労働者の雇用・採用に対する企業の動向調査 (2025年8月)



本件照会先

竹岸 隆浩(調査担当)
帝国データバンク
静岡支店
TEL:054-254-8301
info.shizuoka@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/10/28

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

今回の調査によると、現在、外国人を「雇用している」静岡県企業は32.5%となり、前回調査(2024年2月)から2.1ポイント上昇、採用拡大の意向がある企業は14.4%だった。外国人労働者の雇用・採用における課題では、「スキルや語学などの教育」「コミュニケーション」が依然として高い。外国人労働者の受け入れを推進する政府主導の下、円滑な労使関係を構築する仕組みづくりが必要であろう。

※株式会社帝国データバンクは、全国2万6,162社を対象にアンケート調査を実施した。なお、外国人労働者の雇用・採用に対する企業の動向調査は、前回2024年2月に実施し、今回で2回目。

調査期間:2025年8月18日~8月31日(インターネット調査)

調査対象:全国2万6,162社、有効回答企業数は1万701社(回答率40.9%)

抽出対象:静岡県内企業747社、有効回答企業数は313社。(回答率41.9%)

外国人を雇用している企業は 32.5% 静岡県は全国で 2 番目に高くなった

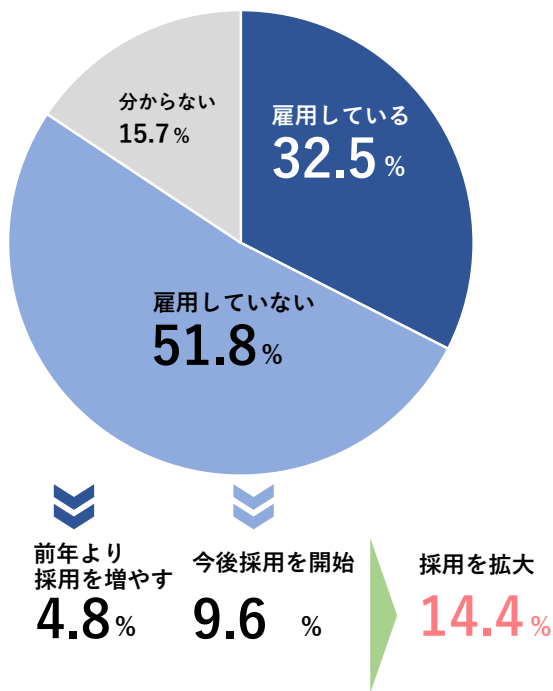
外国人の雇用・採用について静岡県企業に尋ねたところ、現在「雇用している」企業は 32.5%となり、前回調査(2024 年 2 月)から 2.1 ポイント増加した。一方で、現在「雇用していない」企業は 51.8% (前回比 3.4 ポイント減)となり、現在「雇用していない」の低下分が現在「雇用している」の上昇分にシフトする結果となった。

また、今後の採用に関しては、現在外国人を雇用しており、かつ採用を増やす意向の企業は前回調査から 1.1 ポイント低下し、4.8%にとどまった。また、現在雇用していないが、今後新たに採用する企業は 9.6% (前回比 0.6 ポイント減)だった。両者の合計 14.4% (同 1.7 ポイント減)の企業が外国人労働者を採用開始・拡大する意向があることが分かった。

全国では現在「雇用している」企業は 24.7%となり、「静岡県」(32.5%)は「富山県」の 37.2%に次いで 2 番目に高くなった。

外国人労働者の雇用・採用動向

外国人労働者の雇用・採用動向



外国人労働者の採用を拡大する割合

主要6業種

(%)

	現在雇用している	今後採用を拡大する
全国	24.7	14.3
静岡	32.5	14.4
大企業	54.3	13.0
中小企業	28.8	14.6
うち小規模	9.9	6.6
建設	25.7	12.9
製造	45.7	16.8
卸売	16.7	5.6
小売	5.0	5.0
運輸・倉庫	38.2	19.1
サービス	40.0	21.7

注1: 網掛けは、静岡以上を表す

注2: 母数は、有効回答企業313社

規模別では、現在雇用している企業は「大企業」が 54.3%、「中小企業」が 28.8%、「うち小規模」が 9.9%と規模に比例して多かったが、今後採用を拡大する企業は「中小企業」の14.6%が高かった。

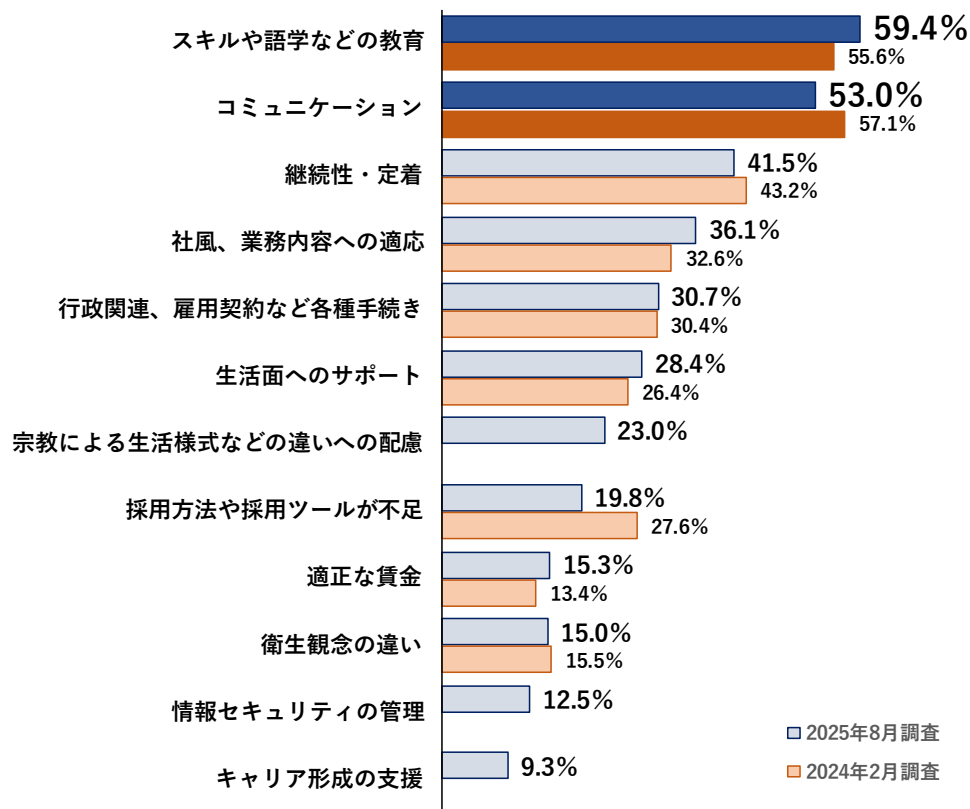
主要 6 業種別では、「製造」が 45.7%、「サービス」が 40.0%、「運輸・倉庫」が 38.2%の順に現在雇用している企業が多かった。一方、今後採用を拡大する企業は「サービス」が 21.7%、「運輸・倉庫」が 19.1%、「製造」が 16.8%で高かった。

外国人雇用の課題、「教育・コミュニケーション」が突出するも具体的な解決策に欠ける

外国人労働者を雇用する際の課題について尋ねたところ、「スキルや語学などの教育」が 59.4%（前回比 3.8 ポイント増）となり最も高く、「コミュニケーション」が 53.0%（同 4.1 ポイント減）で 50%を上回り、前回調査に引き続き突出して高かった。

また、「宗教による生活様式などの違いへの配慮」は 23.0%であり、およそ 4 社に 1 社が課題を抱えている結果となった。

外国人労働者の雇用・採用における課題

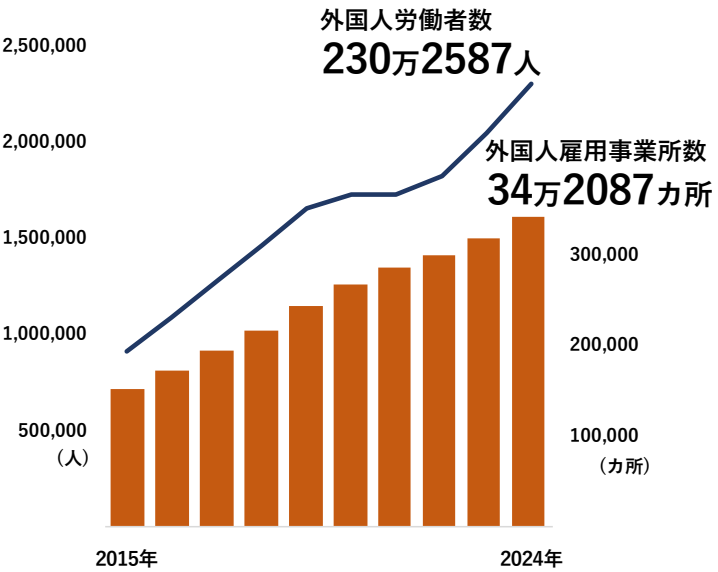


まとめ

本調査の結果、外国人労働者の採用を拡大する意向のある静岡県企業は 14.4%だった。とりわけ、人手不足感の強い個人向けサービス業や 2024 年 9 月に特定技能の分野に自動車運送業が指定されたことにともない、運送業では外国人の採用拡大への意向が高まっている。これらの業種では人手不足が高止まりしている現状を踏まえると、特に外国人労働者を雇用するニーズは強まると予想される。

また、外国人労働者の雇用・採用における課題では、「スキルや語学などの教育」「コミュニケーション」が大きな障壁となっている。今後も外国人労働者は増加していくとみられるが、個々の企業で具体的な解決策を講じるには限界もあるなかで、外国人労働者の受け入れを推進する政府が主導し、円滑な労使関係を構築する仕組みづくりが必要であろう。

<参考> 外国人労働者・雇用事業所の推移



出所：厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況について(各年10月)」

<参考> 企業からの声

	主な企業からの声	業種 51 分類
雇用・採用が順調に進んでいる、または前向きな意見	○ 当社では 3 名採用しておりますが、明らかに他の日本人よりはるかに優秀です	機械製造
	○ 日本の学校教育を受けた外国人ならば、採用を考えたい	建設
	○ 人口減少に伴い、労働人口だけでなく消費人口も減っており、今後も国全体として、また、業界でも増えていくものと思われます	メンテナンス・警備・検査
雇用・採用に困難がある、または否定的な意見	● 募集している職種が現場監督で、長期にわたる教育や協力会社とのコミュニケーションが必要であるため現状では採用を考えていない	建設
	● 国関係の仕事があるため機密保持により外国人の雇用はできない。帰国することがわかっている外国人の雇用は技術職において難しい	輸送用機械・器具製造
	● 注文生産で製品内容も大きく異なり、社員間のコミュニケーションが不可欠。1～2名に対し語学研修など福利厚生、フォローに時間、コストをかけられない	電気機械製造